

学生の確保の見通し等を記載した書類

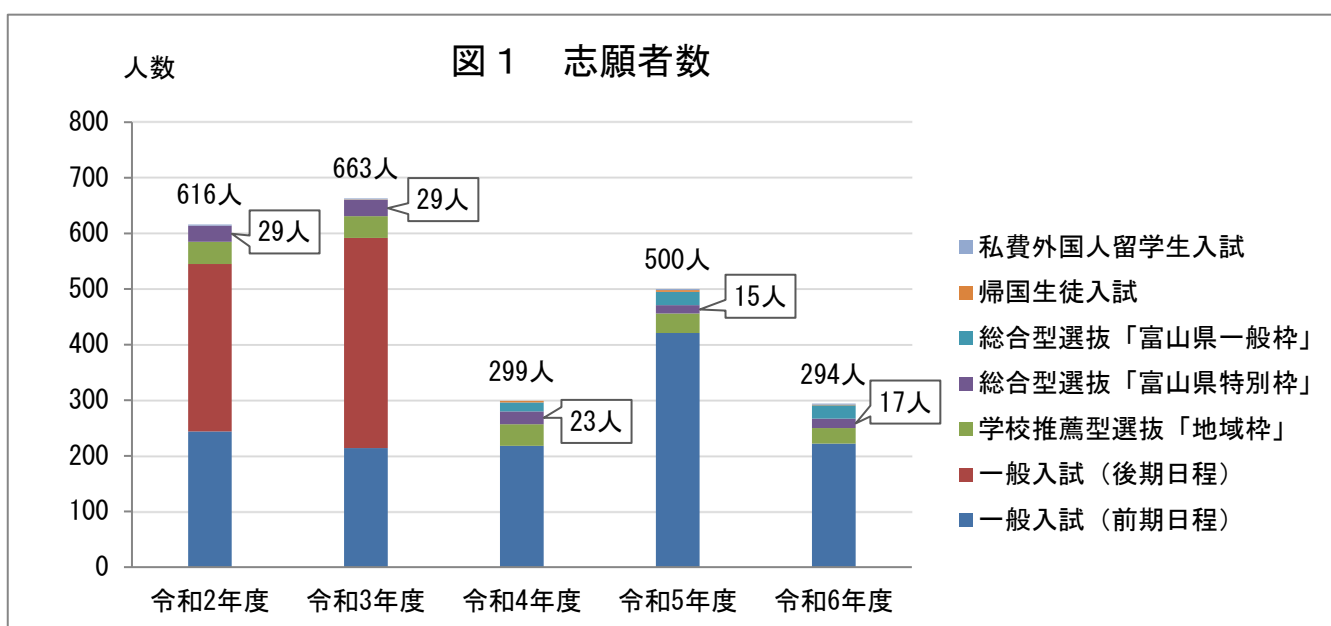
1. 学生の確保の見通し

富山大学医学部医学科の平成21年度以降の入学定員については、「緊急医師確保対策」や「地域の医師確保の観点からの増」に基づく臨時定員増を平成21年度から令和6年度までそれぞれ実施している。

現在の入学定員は、95名の定員に加えて、令和6年度の期限とする10名の入学定員増を含めた合計105名である。過去5年間の入試において安定した志願者数、受験者数、入学者数を確保していることから、引き続き令和7年度に入学定員増を再度行った場合においても、学生を充分確保できると考えている。

(1) 志願者数

志願者数は、令和2年度から令和6年度までの5年間の入試において、図1のとおり推移している。



※総合型選抜「富山県特別枠」は、令和3年度までは自己推薦入試「富山県特別枠」として実施。

また、学校推薦型選抜「地域枠」は、令和2年度までは推薦入試「地域枠」として実施。

一般選抜後期日程の廃止に伴い、令和4年度以降は、前年度までと比較して医学部医学科全体の志願者の総数は減少している。

しかし、富山県内で医師として活躍する人材をこれまで以上に輩出するため、これまで一般選抜後期日程の募集人員としていた20名のうち10名を活用し、令和4年度入試より、新たに富山県出身者を対象とした総合型選抜「富山県一般枠」を導入した。総合型選抜「富山県一般枠」の導入と合わせて、総合型選抜として実施する「富山県特別枠」（10名の臨時定員増を活用）と「富山県一般枠」を併願できるようにしている。「富山県一般枠」を第一志望とする学生のうち、「富山県特別枠」を第二希望として志願した学生を含めた令和4年度以降の総合型選抜「富山県特別枠」の志願者数は表のとおりである。

表 医学部医学科の総合型選抜「富山県特別枠」の志願者数

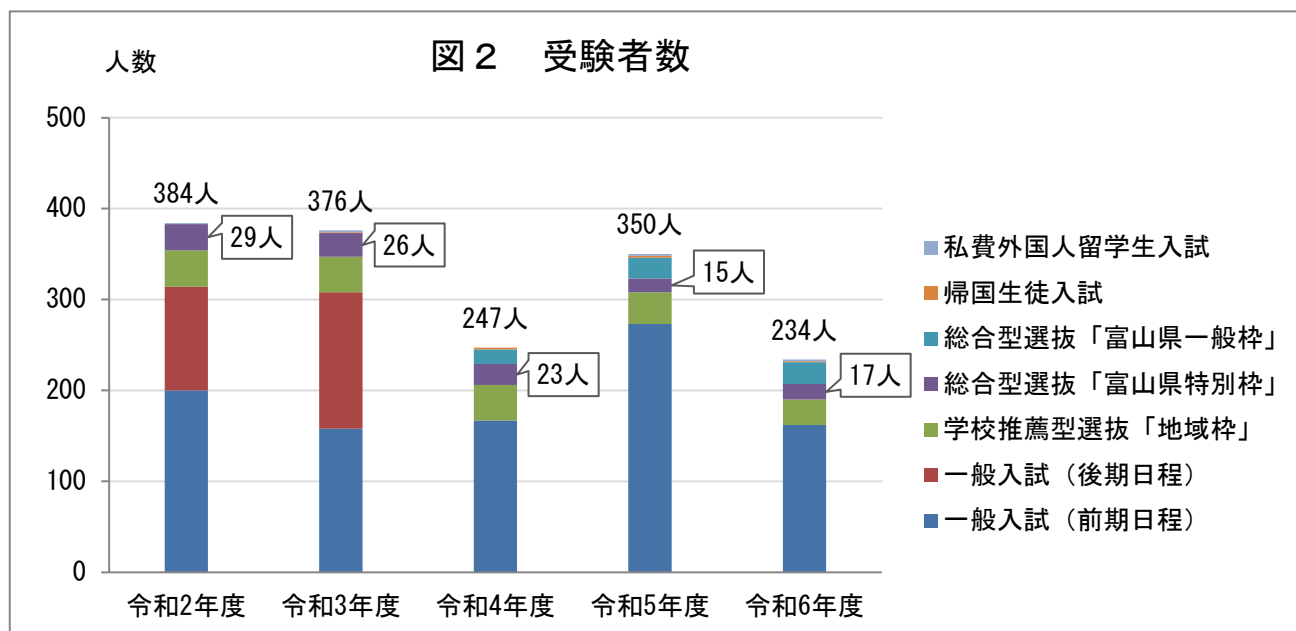
入学年度	R4	R5	R6
第一希望	23	15	17
第二希望	14	21	22
第一希望・第二希望 計	37	36	39

令和5年度以降の入試においては、総合型選抜「富山県特別枠」を第一希望とする志願者は減少しているが、「富山県特別枠」を第二希望として併願している者との合計数（R5 36人、R6 39人）は令和4年度（37人）と同等であり、令和2・3年度と比較しても総合型選抜全体としての志願者数は維持されている。

上記のとおり、10名の臨時定員増を含む総合型選抜（「富山県特別枠」「富山県一般枠」）全体としての志願者数は維持しており、引き続き定員増を行った場合においても、十分な入学者を確保できる見通しである。

（2）受験者数

受験者数は、令和2年度から令和6年度までの5年間の入試において、増減が生じることはあるものの、安定した受験者数を確保している。令和4年度以降の入試においては志願者と同様の理由で、令和2・3年度と比較して医学部医学科全体の受験者の総数は減少しているが、富山県出身者を対象とする総合型選抜（「富山県一般枠」「富山県特別枠」）の受験者数は維持されている。

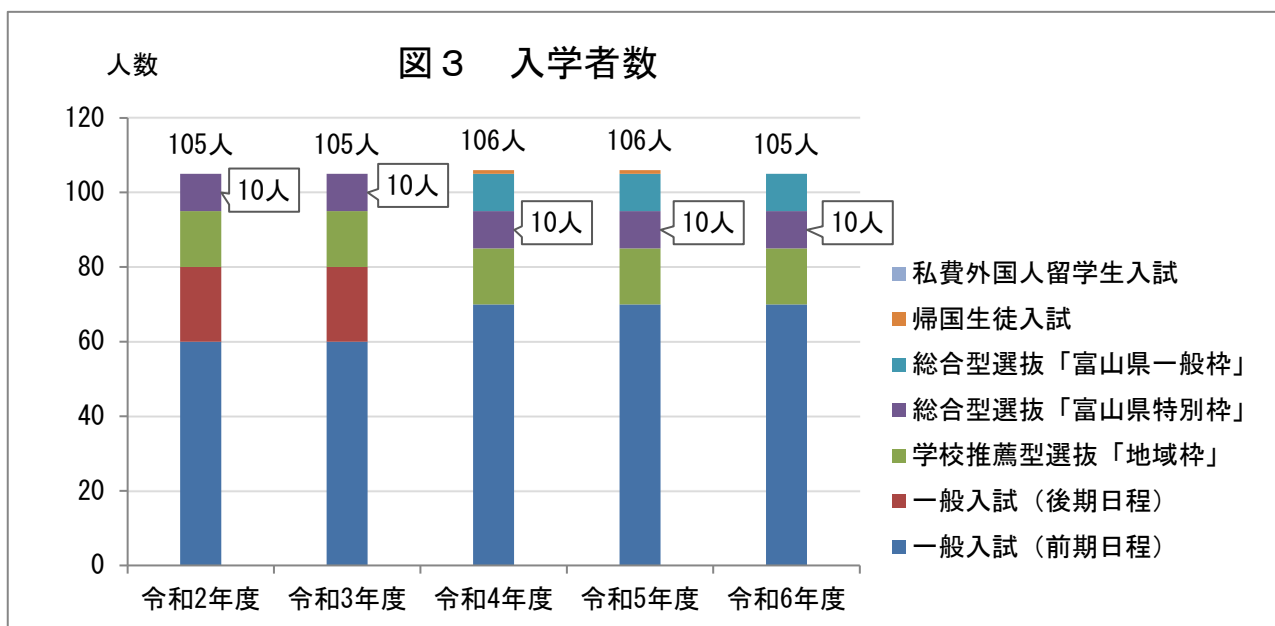


※総合型選抜「富山県特別枠」は、令和3年度までは自己推薦入試「富山県特別枠」として実施。

また、学校推薦型選抜「地域枠」は、令和2年度までは推薦入試「地域枠」として実施。

（3）入学者数

入学者数は、令和2年度から令和6年度までの過去5年間の入試において、入学定員を満たすとともに、入学定員の100%となる水準を維持することで、学修環境の質保証にも努めている。



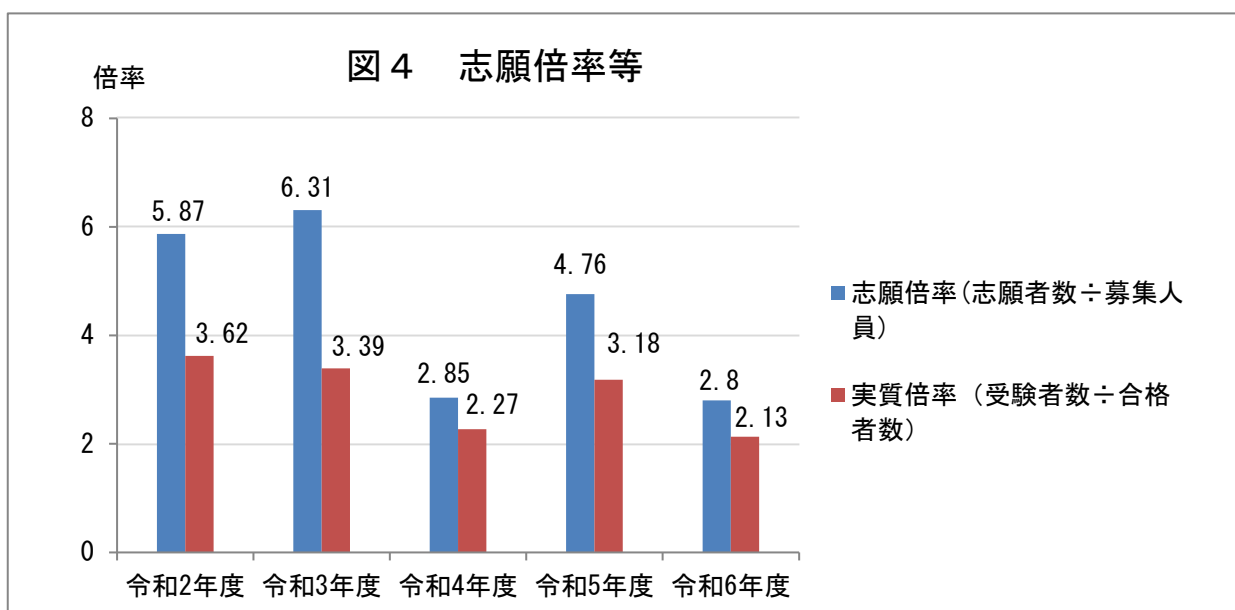
※総合型選抜「富山県特別枠」は、令和3年度までは自己推薦入試「富山県特別枠」として実施。

また、学校推薦型選抜「地域枠」は、令和2年度までは推薦入試「地域枠」として実施。

（4）志願倍率等

令和2年度から令和6年度までの5年間の入試において、志願倍率は2.8倍から6.31倍の間で推移し常時2.8倍以上、実質倍率は2.13倍から3.62倍の間で推移し常時2.1倍以上の倍率を確保している。

なお、令和4年度以降の入学者選抜は、一般選抜後期日程を廃止し、後期日程の定員20名のうち10名を富山県出身者を対象とした総合型選抜「富山県一般枠」として実施したため、全体の倍率は低下したが、前述のとおり富山県出身者を対象とする総合型選抜の志願者数は一貫して維持されていることから学生確保には問題がない。



2. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

総合型選抜「富山県特別枠」を含めた医学部医学科への安定的な学生確保のため、様々な対策を講じて

いる。

夏実施のオープンキャンパスでは、令和5年度から新たに午前の部を設け、地域枠・富山県一般枠・富山県特別枠での進学希望者を対象とした個別進学相談の機会とし、地域医療総合支援学講座の教員や富山県出身の在在学生による大学紹介および質疑応答を行っている。（定員は同伴者を含め200名）

また、午後の部では、医学科全体の進学希望者を対象に、当該年度入試の概要説明や在 student・卒業生による大学紹介および模擬授業を行っている。（定員は同伴者を含め370名）令和6年度は新たに、医学部長・副医学部長ら引率によるキャンパスツアーも行い、同伴者とともに学修・研究施設および隣接の病院施設を実際に見学する機会とする。

加えて、冊子「医学部案内2025」でも、昨年度から引き続き、地域枠・富山県一般枠・富山県特別枠に特化したページを設け、在学中カリキュラムおよび卒業キャリアパス等を魅力的に発信し、県内の高校訪問でも活用する。

3. 養成する人材の社会的要請や人材需要の動向

厚生労働省の「令和4年医師・歯科医師・薬剤師統計」によると、人口10万人当たりの富山県の医師数は令和4年末時点で284.1人となっており、全国平均の274.7人を上回っている。しかし、年齢階級別の医師数では、富山県では60～64歳の医師の割合が最も高く、11.7%と全国平均の10.1%を上回っている。さらに、50代以上の医師の割合が53.9%と全国平均の50.5%を上回っており、臨時定員増を継続することにより引き続き安定的な医師確保に取り組んでいく必要がある。

令和7年度までの期限を付して増員する臨時的な定員は、総合型選抜「富山県特別枠」として学生募集を行う。この入試区分は、富山県内の高等学校等を卒業見込みの者若しくは卒業後2年以内の者又は出願時に富山県在住で2年以内に高等学校卒業認定試験に合格した者を対象とし、かつ、「富山県地域医療確保修学資金」を受給し、医師免許取得後、富山県内で診療に従事することを確約することとしており、卒業後、富山県内での診療に従事することが見込まれる。総合型選抜「富山県特別枠」の卒業生の富山県就職率は100%となっており、医学部医学科全体や同じく富山県出身者を対象とする地域枠と比べて高い割合となっており、富山県内の医師の輩出に貢献している。

